大分市立明野東小学校　学力向上プラン１（８月）

取組番号⑦

学校教育目標	夢に向かって、考え・実践するたくましい子どもの育成
育成を目指す資質・能力	○夢や目標をもつ力　○考え・実践する力　○心身のたくましさ

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	**各種学力調査の分析結果から明らかになった課題** ○全国学力・学習状況調査では、学校全体の平均正答率は目標値や県平均正答率を上回っているが、個別に見ると、平均正答率に達していない児童の割合も高く、学力の二極化が見られた。また、選択式・短答式に比べ、記述式の問題の正答率が低くなっている。記述式の問題では、未記入の割合は、国語で1.4%、算数で0%と少ないが、正答率が国語も算数も県の平均を下回っている。 ○単元末テストでは低学力層（60点以下）の児童の割合は、3.4%以下、と、昨年度(6.8%)より減少傾向にあるが、思・判・表の領域で、その割合が高くなっている。	**各種学力調査の分析結果から明らかになった課題** ○質問紙調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」児童の割合は県や全国より高いが、「当てはまらない」「話し合い活動を行っていない」児童の割合も県や全国よりも高く、「伝え合い活動」で両極になっている。 ○「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問に「当てはまる」と答えた割合が40.6%と、県や全国の割合より多い反面、「どちらかといえば、当てはまらない」児童も10.1%ある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○1学期の学校評価アンケート（児童）において、「授業は分かりやすい」の肯定的評価は97%であった。 ○1学期の学校評価アンケート（児童）において、「家や図書館の本を読んでいます」の肯定的評価は84%であった。 ○1学期の学校評価アンケート（児童）において、「家庭学習（学年×10分＋10分以上）ができている」の肯定的評価は89%であった。	
指導の状況	**1 組織的な授業改善の取組状況** ○1学期の学校評価アンケート（教職員）において、「どの子にも『分かる・できる』が実感できる授業にするため、ユニバーサルデザインの考え方『焦点化、視覚化、共有化』と、生徒指導の3機能を関連付けた指導の工夫や改善に取り組んでいる。」の肯定的評価は71%であった。 **2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況** ○「週末作文及び日記指導の充実に取り組んでいる」の肯定的評価63%であった。 ○1学期の学校評価アンケート（教職員）において、「『家庭学習のてびき』などを活用し、家庭学習の習慣化を図っている」の肯定的評価は88%であった。	

学力に関する達成指標

全教科の単元末テストの学期平均における低学力層（60点以下）を5%以下にする。

今後の具体的な取組

【授業改善】

〈授業改善のテーマ・重点〉

自ら課題やめあてをもち、主体的に学び合いながら最後まで課題解決に取り組み、分かる・できるを実感して学ぶよろこびがもてる子どもの育成

〈取組内容〉

○どの子にも「わかる・できる」が実感できる授業にするため、ユニバーサルデザインの考え方「焦点化・視覚化・共有化」と生徒指導の3機能を関連付けた指導の工夫
○付けたい力を明確にし、課題設定の手立てを工夫した授業づくり
○主体的に学び合う手立ての工夫
○分かる・できるを実感させるための取組の充実

〈取組指標〉

○付けたい力を明確にし、子どもとともに課題を共有して設定し、課題を焦点化した授業を各教科で行う。
○主体的・協働的に解決していく活動を単元ごとに取り入れる。
○授業（単元)終了時に、付けたい力を意識した振り返りをして、分かる・できるを実感させる。※「書く」活動のみでなく、対話や発言等による振り返りも含む。
○複数の資料や実験結果等を関連付けて、分析や読み取る活動など、日常の授業の中で多く取り入れるようにする。

〈検証指標〉

○授業で、みんなで解決したいことを、見付けたり考えたりすることができた児童【80%以上】
○授業で、自分から進んで考え、友達と話し合いながら活動することができた児童【80%以上】
○授業で、自分が学んだことについて、振り返ることができた児童【80%以上】

【家庭・地域との協働】

〈家庭・地域の取組内容〉

○家庭における学習習慣の確立に取り組む。
○「あけのSNS三原則」に取り組む。
○ポプラタイム（総合的な学習の時間）において学校に協力する。

〈家庭・地域の取組指標〉

○「家庭学習の手引き」に基づいた学習時間・内容に取り組む。
○家庭・地域の方や団体が、どの学年においても年1回は協力する。

〈家庭・地域の検証指標〉

○学校評価アンケート（保護者）において、「子どもは（『家庭学習の手引き』等を参考にして）家庭学習が習慣化できている」の肯定評価80%以上。

【授業改善以外の学力向上の取組】

○全学年で教科書に準拠した応用問題集（算数）を採用し、スキルタイム時に取り組む。
○スキルタイム時（週2回）に低学力層児童に対して、学級担任外教員と連携して算数科の補充指導を実施する。
○小中9年間を見通した「明野中学校区　小中一貫教育　家庭学習の手引き」の活用や子ども一人一人のつまずきに応じた家庭学習を出す等、家庭学習の充実を図り、面談・学級懇談会・学年通信等を通して、保護者との連携を深める。